

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPU



September 2018
No.787



7/29～9/17に開催している大地の芸術祭の作品「大地の恵み」(公民館で展示)のオープニングレセプションの一コマです。

※夕景は一年を通して毎日日没から点灯している作品です。

4~5 特集 新潟県公民館大会 事例発表 I II III 上越市、三条市、佐渡市

CONTENTS	2	トピックス	「新潟県社会教育団体懇話会(社団懇)総会開催」
	3	視点 ひろば 掲示板	「ワクワクの仕事」 下越教育事務所 社会教育課 副参事 長谷川 宮女子 社会教育団体懇談会「あづまろで〜」 胎内市社会教育委員 近 愛 「各地区研修会の開催」
	6	実践記録シリーズ	「学びの郷南魚沼」 南魚沼市公民館
	7	サークル交流 素顔拝見	「活動エピソード」(新潟市) / 「身近に気軽にレッスンできるバレエサークル」(阿賀野市) 川上奈津実さん(糸魚川市) / 山崎 純一さん(小千谷市)
8	お元気ですか ネットワーク	「地域と人、ふれあいを大切に」 村上市・中村 行善さん みんなで参加しましょう!	

新潟県社会教育団体懇話会(社団懇)総会開催

社団懇の総会が7月20日(金)にじよいあす新潟会館で開催されました。

須田貴子会長のあいさつの後、事務局の泉子連 板垣事務局長の進行で総会が行われました。

○来賓の皆様から平成30年度の生涯学習施策の推進と課題について説明がありました。

新潟県教育庁

生涯学習推進課長

信田 直樹様

新潟県立生涯学習

推進センター所長

長谷川明寿様

新潟県少年自然の家所長

丹後 裕様



参加者のみなさんです

○協議内容は下記のとおりですが、すべて承認されました。

・平成29年度事業報告と収支決算報告

・平成30年度役員選出

・平成30年度事業計画と予算案

○加盟団体の現況報告(10団体)を行いました。

※社団懇は県内の社会教育関係10団体で構成されています。

1 新潟県社会教育委員協議会

2 新潟県公民館連合会

3 新潟県小中学校PTA連合会

4 新潟県高等学校PTA連合会

5 日本ボーイスカウト新潟連盟

6 一般社団法人 ガールスカウト新潟県連盟

7 新潟県婦人連盟

8 新潟県健康少年団連合会

9 新潟県生涯学習協会

10 一般社団法人 新潟県子ども会育成連合会

それぞれの団体の活動の重点施策等について報告がなされました。

県の事業だけでなく、各団体の事業への協力も積極的に行われています。

○講演会

講師 支え合いのしくみ づくりアドバイザー

河田 珪子様



講師 河田 珪子様

「実家の茶の間」の立ち上げを始めとする支え合いの仕組みづくりの実績と活動についてお話を聞くことができました。また、地域包括ケアシステムの推進、団塊の世代がすべて75歳以上になる2025年を見据えて、地域ぐるみの支え合い、お互いさまの助け合いの構築、さらには助け合いのしくみも必要になると熱く語られていました。

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部160円 年間1,920円(いずれも送料含む)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107 新潟県公民館連合会 TEL・FAX025-266-7711



社会教育団体懇談会 「あづまろで〜」

胎内市社会教育委員
近 愛



私たちは循環型社会教育を指し、何をすべきかを考え、まずは公民館などを活動の拠点としている社会教育団体の人たちが、自分たちの他にどんな団体があつて、どんな活動をしているのかよく知らない人も多いのではないかと、また、それぞれの団体が活動する中で大小様々な悩みを抱えているのではないかと、いろいろな話が出ました。それならば、各団体でお互いを知ってもらい、横のつながりを持ち、それぞれの活動の成果や悩み、課題を話し合うこ

とで、今後の活動に役立ててもらおうということになり、社会教育団体懇談会を計画しました。懇談会のタイトルは、気軽に集まってほしいと思いい地元の方言を使い親しみやすさを持たせ「あづまろで〜」としました。
第1回「あづまろで〜」の当日は、案内を出した32団体のうち21団体の代表者が出席し、それぞれの活動成果、悩みや課題について話し合い情報交換を行いました。代表者の人たちは今後の団体活

動についてのヒントをもらったり、団体同士が横へつながるきっかけを作れたようです。今後も団体活動の充実、学びの場・学習の場の充実に役立ててもらえるよう「あづまろで〜」を継続して開催しようとして計画しています。



※「あづまろで〜」はこの地域での「集まろで〜」の方言

視点



下越教育事務所 社会教育課
副参事 長谷川 宮女子

「ワクワクの仕事」

下越教育事務所では、下越地区公民館連絡協議会事務局として、毎年2回公民館職員研修会を開催しています。今年度は5月に阿賀町で、12月に胎内市で行います。

5月の研修会では、観光ボランティアやレガッタ体験の指導者、会場となった「狐の嫁入り屋敷」の管理者の皆さんから御配慮いただき阿賀町のよさを実感しました。このような公民館職員以外の方からの御支援は普段からの公民館職員と地域の皆さんの信頼関係によるものと感じました。とても満足できる研修となりました。

グループワークでは、「地域資源を活用した学校の教育活動への関わり方について」をテーマに日出谷小学校の実践紹介を受け、公民館と学校がつながるための具体的な手立てを話し合い、充実した研修になりました。

私は今年3月まで中学校で勤務していましたが、恥ずかしいことに公民館とのつながりを意識したことはありませんでした。

先日の県公連大会でのすばらしい事例発表しかり、今後も公民館に関わる仕事を通してワクワクできることが楽しみです。

た。しかし、今回の研修会で公民館職員の皆さんのコミュニケーションの取り方(信頼関係の構築や多様な事業実践と人材育成・活用のためのノウハウ等、学びがたくさんありました。

各地区研修会の開催

掲示板 HOT NEWS

○下越地区公民館関係職員等研修会

- (1)期日 10月5日(金)
- (2)会場 新発田市生涯学習センター
- (3)日程
 - 10:00 開会式
 - 10:30 講演会
 - 演題 「市民が学びを創れる時代の地域での学習支援」
 - 講師 新潟医療福祉大学

助教 佐藤 裕紀様

- 13:15 分科会
- 15:30 閉会式

○第18回新潟県社会教育研究大会 糸魚川大会・上越地区社会教育研究集会

- (1)期日 10月17日(水)
- (2)会場 糸魚川市ふれあいセンター
「ビーチホールまがたま」

(3)日程

- 10:30 開会式
- 11:00 講演会
- 演題 「文化・歴史から見る 糸魚川大火」
- 講師 糸魚川市教育委員会
事務局文化振興課
文化行政係長 榎 正喜 様
- 13:55 分科会
- 15:50 閉会式

特集

県公民館大会 事例発表ⅠⅡⅢ 上越市、三条市、佐渡市

事例発表Ⅰ 「公民館でやってみよう」～高土地区から発信～

上越市高土地区公民館 公民館主事 上野 秀平

◆平成29年度高土地区公民館事業

地区公民館の事業実施にあたっては、当市が目指す姿「学びの輪が人を育み地域を支えるまち」を念頭におき、公民館運営委員とともに打ち合わせを行い、事業内容を計画しています。昨年度は公民館運営委員から①子どもたちが公民館に来れば保護者も来るようになる②地域産業を活用した事業を行ってほしい③若い世代が参加できる必要があるとよい④学校や地区団体との連携を図っていくことが必要だ⑤郷土の偉人川上善兵衛翁ゆかりの樹木があることをPRしたいといった意見があり、これらの意見を踏まえて、9の事業を実施しました。その中のいくつかを紹介いたします。

○青少年を対象とした事業

公民館の屋上を会場に、上越市清里区の天体学習施設星のふるさと館による出前講座を行いました。この活動を通して子どもたちの宇宙への関心を高めることも、天体望遠鏡を通じて本物を観察する素晴らしい体験ができたと思います。また、子どもが参加して感じた保護者は、地元で素晴らしい星を見ることができ、街灯の少ない地域ならではのメリットを実感してもらったことだと思います。

○成人を対象とした事業

岩の原ワインに合うおつまみづくり講座は、ワインに合う料理をテーマに、地元ワイナリーレストランのシェフを講師に迎え、2回シリーズで実施しました。

○善兵衛学習成果発表会

地域に葡萄園がある特色を生かし、高土小学校6年生が総合学習で実践する葡萄栽培の様子や、その学習成果を発表してもらいました。子どもたちの演技やダンスを交えながら発表し、集まった地域住民は目を細めて楽しんでいました。

○レクリエーションダンス教室

公民館利用者からレクダンスをやってみよう。この声を受け、3回シリーズで企画した講座で



おつまみづくり講座

す。50代～70代の参加者15名が、馴染みのある歌謡曲に合わせてダンスを楽しみました。講師からは、振付の正確さにこだわらず、楽しんでやりましょう、と声掛けをして頂き、終始和やかでアットホームな雰囲気でした。

○お正月準備講座

年の瀬に「切り絵切り紙」「干支づくり」「門松づくり」のシリーズで、お正月に必要なしつらえを手付けしました。

3年目を迎える講座ですが、日本の伝統文化であり、心穏やかに新年を迎えるため、毎年集まって活動したいとの提案があり、それぞれ自主活動に移行しました。

○元氣の出るふるさと講座

この事業は、地域・現代課題に対応した地域づくりを目指して、地域でできる活動を考え、実践することを目標とした3年連続の講座で、市内12地区で取り組んでいます。高土地区では3年目を迎えるにあたり、公民館運営委員や地域の方と打ち合わせを重ね、地域に必要な活動を検討する中で、他の地区では神社仏閣などのマップを作成している中で、高土地区にはしかないオリジナルのマップを作成したいと提案があったことから、地域マップの作成を目標に、3年目の事業をスタートしました。

◆今後の展望

公民館活動が発展していくには、地域の理解と協力が欠かせません。今年度も公民館運営委員をはじめ、地域の方と情報を交換し、地域で真に必要なとされ、喜んでいただける事業が提供できるよう、取り組んでいきたいと思います。

公民館に気軽に来ていただき、心の拠り所としていただくとともに、「高土に生まれ育って良かった」「高土に来て良かった」「高土に帰りたい」と思ってくれる人が一人でも増えるよう、地域の皆様とともに、一歩一歩着実に前へ進むことが大切なことと思います。



ふるさと講座

事例発表Ⅱ 「きっかけの1歩事業」

三条市中央公民館 課長補佐 齋藤 真佐男

◆事業の目的

これまで公民館では実施しなかったことがない突拍子もないプログラム(TPP)を実施することで、高齢者の外出機会を創出し活動に参加してもらい、その活動を通して、次のステージとなる地域の「支え手」の手として活動してもらったことを目的に実施するもの

◆事業の実践内容

①4つの特色
ア これまで公民館では実施しなかったような「突拍子もない」プログラムであること
イ 参加費が無料であること
ウ 数多く実施すること(平成29年度61事業を実施)
エ イベント後、無料のお茶会(交流会)を開催すること

②平成29年度の主な事業を紹介

ア プラ★タム
まち歩き案内人 田村栄さんと一緒に「越後三条小路百選」に掲載されている名物小路を巡り、事業後のお茶会で参加者同士が交流しました。
イ 大ホールでカラオケを歌ってみませんか
ウ 500席の大ホールでカラオケを歌ってもらいイベントを、4回開催しました。

ウ 歩かないまち歩き

足腰が痛くて歩けないがまちあるきには興味があるという市民を対象に入ライドを見ながら、座ったままでまちあるきの楽しさを感じていた

フリー将棋対局の様子



フリー将棋対局の様子



まち歩きの様子

だくイベントを、4回開催しました。
 工 春のえんがわ将棋まつり
 第30期電王戦三条開催の気運を盛り上げることを目的に、ス
 テーじえんがわを会場にフリー将棋対局や詰将棋クイズなどの、将
 棋イベントを開催しました。1日で述べ280人が来場しました。

◆成果と課題
 (1)平成29年度さつかけの1歩事業の主な成果

ア「新たな外出機会」に効果あり！

さつかけの1歩事業参加者の約4割(44.2%)がこれまでほと
 んど公民館を利用したことのない市民であったことから、新たな
 外出機会の創出を図ることができました。

イ「男性参加」に効果あり！

一般的には公民館を利用する男性が1〜2割と言われている
 中、さつかけの1歩事業参加者のうち、男性は32.6%であったこ
 とから、突拍子のないプログラムによって男性参加の促進を図る
 ことができました。

ウ「公民館の利用率の向上」に効果あり！

さつかけの1歩事業の実施前の過去5年間(平成22〜26)の平均利
 用率と比較すると、全ての公民館で利用率が向上しました。

エ「担い手・支え手」の掘り起こしに効果あり！

「肩掛け(お誘い)」を徹底し、1300人の方からハッピーボラ
 ンティアとして登録していただき、その後、様々な公民館事業
 イベントスタッフとして活動しています。

(2)さつかけの1歩事業の課題

ア 認知度の向上

さつかけの1歩事業の高齢者の認知度は12.8%と低く、さつ
 かけの1歩事業のターゲットである高齢者にさらに認知してもら
 う必要があります。

イ 参加率の向上

さつかけの1歩事業の高齢者の参加率は2.1%とまだ非常に
 低いため、更なる参加率を目指していくことが必要です。

(3)平成30年度の取組

ア T P P 54事業の実施

9公民館×6事業＝54さつかけの1歩
 うち新規事業 27事業
 開催回数の更なる拡大

イ 開催回数の上昇

↓参加してもらうためには何回でも
 T P P 54事業×複数回実施＝474回
 情報を手にもらう

ウ 新たな参加者の掘り出し

↓新たな270か所にさつかけの1歩パンフレットを配布
 9公民館×30か所＝270か所
 場所にこだわって開催
 ↓多くの方に見せることで認知度向上

エ 突拍子のない事業(T P P 54)を突拍子もない場所で実施

・三条別院 あそびほつて、フルーツ王国、大崎山など
 発信力のある人とのコラボ事業

↓さつかけの1歩事業認知度の向上
 さつかけの1歩事業認知度の向上
 さつかけの1歩事業認知度の向上

力 第4ステージへのお誘い

↓活躍の場に出てきたハッピーボランティアに職員が「肩掛け」
 し、これまでの自信とやりがいを刺激し、支える人(裏方)か
 ら担う人(主役)になってもらう。

事例発表Ⅲ

人を信じ地域間・世代間交流で地域コミュニティを呼び起こす
 「真野地区のつどい」つなげよう「真野」
 『公民館事業活性化支援隊組織を活用して』

真野地区公民館館長 松井 夫佐子

◆真野地区支援隊創設の目的、事業の重点4項目・支援員
 支援隊創設の目的は、

「地区公民館事業を進めるに当たり、住民の要望に沿った事業を展開
 し、公民館事業に地区住民から積極的に関与してもらうことで、地域を
 元気にすることを目的とする」です。

公民館事業の重点4項目(佐渡市公運審答申)は、

(1)青少年を育てる事業 (2)若者が集い交流できる場の充実 (3)
 やりがいのある公民館講座、教室の運営 (4)地域の特性を活かした
 事業 です。

支援員全員、内在する地域力が引き出され、住民の力で地域を活性化し
 ていけるような公民館活動を進めたいと願いながらのスタートでした。

◆支援員が重点的にかかわる事業

『評価規準とP D C Aサイクルを活用しながら』

支援員は、地区民全体がかかわる公民館事業を中心に、実行委員会の
 希望を取り入れた評価規準を設け、側面から支援していくことにしま
 した。

会場設営や準備、後始末にも参加し、実行委員の皆様と共に活動をし
 ています。

(1)「真野地区文化祭」と「真野地区芸能祭」

前々日に照明を設置したり、前日のリハーサルと当日の裏方役に
 加わったりしています。

(2)「真野地区のつどい」つなげよう「真野」(新規事業)

かつての地域コミュニティを呼び起こし、地域力や地域の教育力を
 高める場の設定を探ることを支援隊活動の一つにしました。

◆「真野地区のつどい」つなげよう
 広げよう「真野」

(以下「つどい」記述)について
 ○「つどい」開催までの過程

①実行委員会立ち上げまでの経
 緯(支援員の活動)

支援員は、教育委員会や真野
 行政サービスセンター、各種団
 体、保育園や学校、地元議員や
 地域の方々の見解や意見、情報
 などをおいていただきました。

実行委員会発足後は、支援員
 全員が実行委員として活動し



鬼太鼓の披露

ていくことになりました。

○「つどい」の内容(半日日程、午前)

第1回〜2回開催のオープニングでは、
 地区の5集落の皆様による鬼太鼓の競演
 と獅子舞を披露していただきました。第
 3回〜4回開催では、大黒舞愛好会の皆様
 による大黒舞を披露していただきました。
 種目は8種目です。

○「つどい」の事業主体、共催、後援等

第1回〜2回開催は、佐渡市が始めたば
 かりの元気な地域づくり支援事業を受
 けて開催。第3回開催からは、計画通り公民館事業へ移行し、同じく実
 行委員会形式で行っています。

共催は「真野地区体育協会」、「真野地区老人クラブ連合会」、「真野
 の里」、「グループホーム真野」、「あすかの郷」。後援は、真野・西三川郵
 便局、佐渡農協、赤十字奉仕団、真野商工会、地区青少年健全育成協議会
 などです。保育園や小学校、中学校からも協力をいただいています。

○「つどい」を運営・進行するスタッフ

前日準備や当日の準備、運営・進行のスタッフは、真野地区体育協会、
 真野地区在住の佐渡市職員、公民館職員、ボランティア、実行委員会の
 皆様です。事前の役員代表者会議にも出席し、毎回、スムーズな運営・
 進行をしていただいています。第4回スタッフは65名。

◆「つどい」開催の成果と課題

(1)参加者・スタッフ・応援の増加

参加者や応援の観客、スタッフは年々増加傾向にあります。
 「つどい」の輪が広がっています。第4回「つどい」では小中
 P T Aの5名の方が、自主的にスタッフとして活躍してくださりました。
 中学生の一人も若者と一緒に関わり、準備係として活躍しました。

(2)課題の克服に向けて

賛同する人や団体が増え、交流の輪が広がり、地区の皆様から楽し
 むにしたいだけという「つどい」への、今後は準備や運営・進行に関
 わるスタッフが多く集まるような「つどい」へと成長していけるように、第
 4回開催後より、企画委員の皆様からも支援員になりました。また、「つどい」
 の定着化に特化して取り組んでいただくことになりました。

◆「つどい」の開催の成果と課題

支援員の皆様に恵まれ、「つどい」実行委員、真野地区体育協会、各施
 設、老人クラブ連合会、公民館職員、行政に携わる職員の皆様が、各施
 設や地域を創る心豊かな人々に出会い、地域「コミュニティ」の呼び起
 こしに取り組みすることができました。高齢の皆様が手本を示し、若者が
 力を発揮し、子どもたちも、社会の営みや人々の愛を意識できるような
 公民館事業が実行委員会形式で歩き出しました。地区の皆様が一堂に
 会して交流する「つどい」の開催をおして、保育園、小・中学校、施設、
 分館、各種団体、地区の皆様、行政とのつながりも深くなってきました。
 始まったばかりでこれからです。佐渡市長が列席され、祝辞の中で、
 「みんなが集まること」が難しい時代である。是非続けてほしい。」と
 話されました。大きな励みとなる言葉でした。

◆「つどい」の開催の成果と課題

地区を創る人々の愛と力を基盤に行政等と連携し、地域づくりの拠
 点としての公民館創りを進めていきたいと思います。



子どものパン喰い競争

実践記録シリーズ

246

「学びの郷南魚沼」

南魚沼市公民館

【学びの郷南魚沼プランとは】

「学びあい、教えあい、伝えあい、そして輝く、わたしと地域」を基本理念として、市民が主役となり持続可能な平和で豊かなまちづくりを目指し、次世代へとつなげるために策定された生涯学習プランです。

【実施までの検討・準備】

平成28年から29年度にかけて、学びの郷南魚沼プランの策定・検討を実施しました。平成29年度には出来上がった学びの郷南魚沼プランの説明会を市民向けに開催しました。説明会当日は、受けてみたい講座などについてアンケート調査も実施しました。



説明会にてアンケート調査を実施

【活動の状況】

健康づくり登山(浦佐分館)

地域の里山を登る健康づくり登山を通じて、世代間の交流や地域の魅力を再発見する機会を提供することを目指して開催しました。小学生から中高年まで男女を問わず多く



下権現堂山頂にて

の方から参加いただきました。子どもも大人も声を掛け合い楽しみながら、無事登頂することができました。

ふるさとハイキング(中央公民館)

地元の魅力を知ってもらうため、家族だけではなかなか出かけない、身近ではあるけれど意外と知らないふるさとを巡るイベントを開催しました。参加者からはとてもいい運動になり子どもも楽しんでたとの喜びの声をいただきました。



三国川ダムにて

地域の宝 再発見ツアー(新潟県と市の共催)

南魚沼の名水を始めとして、地域の宝を再発見することを目指し、夏休み期間に実施しました。当初、県内の小学生の参加を見込んでいたが、中高年からの申込みも多くあり世代間での交流も図れました。



新潟県名水「雷電様の水」を見学

【今後について】

学びの郷南魚沼では、個人、団体、企業を問わず、地域の皆様からのさまざまな企画を募集していきます。また、「こんなことをやってみたい」「学びたい」といった意見集約も行っていきます。さらに、「これがやりたいけどやり方がわからない」という相談にも応じていきます。

市内や近隣で完結する生涯学習環境を整備していきたい、市民自身が「こんなことをやってみたい」「学びたい」事業を公民館の支援を得ながら実施する「連携協働型の生涯学習システム」への転換を目指し、さまざまな事業を「企画・立案・実行」していく予定です。(南雲)



活動エピソード

吹矢の会

今年の4月に18名で「吹き矢」の会を結成することができました。運営は事務局に話題をあげ、みんなで話し合っ

て決めています。昨年10月の市の広報誌に「吹き矢」練習会の記事がのりま



のが一番と思い、足の位置、手の角度と

の角度と思いをめぐらしてみたら、うま

身近に気軽にレッスンできるバレエサークル

京ヶ瀬バレエマイツ

京ヶ瀬バレエマイツは、平成7年から活動を開始して、今年で23年目になります。

最初の会員は、ママになっていたり、社会人として働いていたりして、ほとんど残っていませんが、落ち着いたところにサー



阿賀野市・京ヶ瀬バレエマイツ 小菅登美子 記

クルに再加入してバレエを始める人や、バレエまたやりたいね」と言ってくれる人たちが今もいます。

活動は、毎週土曜日に小さい子から大人まで2クラスに分けてレッスンしています。

体幹も鍛えられ姿勢も良くなるバレエは、生涯学習としていつまでも付き合っていけるものだと思えます。これからも地元

糸魚川市地区公民館

副主事 川上奈津実さん



「人と話すことが好きです。コミュニケーションを大切にしていきます。」これは、川上奈津実さんが副主事採用の調書に書いていました。今春4月から一緒に仕事を

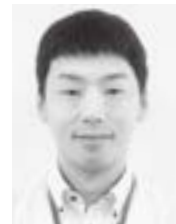
して一番に感じることは、明るさと前向きな姿勢です。初めての土地糸魚川、人も、公民館活動も分からないまま出発しました。しかし、持ち前の明るさと前向きな姿勢でがんばっています。

しかし、自ら学ぼう、分からないことは聞いて生かそうとする姿勢がすばらしい。経験を積み重ねること

(糸魚川地区公民館長 池原 栄一 記)

小千谷市公民館

主事 山崎 純一さん



生涯学習課社会教育係2年目の山崎純一さんを紹介いたします。

社会教育係は、公民館長含め8名、うち男性は館長と山崎さんの2人のみ。

山崎さんは学芸員の資格を持ち、今年の猛暑の中も埋蔵文化財の発掘調査に出掛け、真っ赤に日焼けし、汗と泥まみれの日々を過ごしたり、公民館利用者の対応や「文芸おどや」の担当として作品募集、そして11月の「小千谷市民文芸のつどい」開催に向け力を注いでいます。

時々失敗もありますが、そんな時は母たち(係の女性陣)から喝?を受け、頑張っていますのでこれからの活躍にも期待しています!

(小千谷市公民館 丸山 知子 記)

素顔拝見

ネットワーク

お元気ですか

「地域と人、ふれあいを大切に」

中村 行善 (村上市)



大学卒業と同時に地元の酒造会社に39年間。61歳になった時、続けるか新たなスタートを切るか悩んだうえで退職を選択しました。70歳まで働くことを求められる時代にも思いました。健康寿命を考えると給与に縛られない自分の生き方や楽しみもそれほど多くの時間が残されているとも思えません。酒造業は造って終わりではな

※「お元気ですか」のコーナーは掲載をリタイアした方がその後元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

く、飲んでいただいで、いくらの世界。従ってより多くの方と接触することが仕事。会社が主催するイベントはもちろん、業界が主催するイベントは10万人を超えるものも、そんな時は地元村上を宣伝し、観光に来ていただくことが自社製品の最も有効な宣伝でありました。そのためには地元をよりよく知り、愛している事が大切です。そうし

たことから、職を超えて沢山の方々や地域の方との交流が増え、自分にとっての財産と考えようになりました。自分としては4年早く退職した時間をより多くの人との触れ合いに費やすことにし、集落の役員はもちろん、まちづくり協議会や、青少年健全育成、放課後こども教室等々積極的に取り組んでいます。最近では寺社の役員も。20年以上になる趣味のギター演奏は更に交流を広げてくれます。

みんなで参加しましょう！

○第28回新潟県スポーツ・レクリエーション大会in長岡
～開府400年～米100歳の「精神」が育む文化のまっしぐら

趣旨 各種団体団体の成果を結集し、広く県民を対象とした市民参加型大会を開催することを通して、生涯スポーツと地域レクリエーション運動の活性化を図り、県民の健康の増進と生きがいの高揚に資することを目的としています。
日程 10月13日(土)～14日(日)
会場 アオーレ長岡
国宮越後丘陵公園
9:00 団体別研修会・講習会
13:00 総合開会式(アオーレ長岡)
15:30～17:00 ワークショップ
(アオーレ長岡)

社会教育関係者

元氣アップ交流集会
社会教育の仕事にかかわっている人、この交流集会に参加してみんなで疑問や悩みを語り合い、たくさん元氣をもらいましょう！
今回は、社会教育の仕事にかかわる職員が学び、つながりを作るこの大切さをみんなで考えます。ぜひ参加してください！
日程 9月29日(土)
会場 柏崎市谷根729番地
(旧山崎邸)
13:00 開会
話題提供①「社会教育職員の学び」千葉真津市の公

・基調講演「これからのスポーツレクリエーション」
東海大名菅教授
西野 仁 様
パネルディスカッション
新潟県レクリエーション協会
025128718709
※問い合わせ

民館職員の一例から

中村 亮彦さん(君津市 周南公民館勤務)
話題提供②「公民館と学習する組織」
杉山 茂一さん(新潟市 石山地区公民館勤務)
話題提供③「上越地区社会教育主事会の学びと50年の歩み」
沢田 繁さん(上越市役所 上越地区社会教育主事会会長)

16:00 終了
参加費 一、〇〇〇円
懇親会あり(別途申込み)
会場 古民家の所有者(千葉大名菅教授、講師 長澤 成次さん)
新潟県生涯学習協会
02512661122
※問い合わせ

農業・農村が日々の生活を支えています

農業・農村は、安全・安心な食料を安定的に供給するとともに、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的な機能を有しています。

本県農業・農村振興の取り組みに対する県民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

新潟県市町村農業農村振興対策協議会
会長(糸魚川市長) 米田 徹
新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

編集後記

地域のサークルで卓球を楽しむんでいる妻の大会に応援に行くこともあり、卓球大会等で70歳代や80歳代の方々の卓球に打ち込むはつらつとした元気な姿にいつも驚かされます。
「60歳半ばなんかまだ鼻たれ

小僧みたいなものよ」と妻に激を飛ばされています。
人生100年時代ということばをよく耳にしますが、いつまでも元気でいられるように地域の公民館に出かけようかと思うようになりました。(広瀬)